デジタルと詐欺

先日の朝、池袋駅内の立ち食いで妻とそばを食べていると、高齢の男性が財布と1万円札を握って入店し注文するが、忙しいスタッフは「外の券売機で食券を買って」というだけで取り合わず、男性は、食券の買い方がわからなかったのか、店に入ってこなかった。

ニュースでは、金融機関に母と来た7歳と5歳の姉妹が隣のＡＴＭで電話をしながら操作にまごついている高齢者を見て母に知らせ、詐欺を未然に防いだことや、コンビニでも高齢者が指示を受けながら、高額の電子マネーを購入しようとしたのを店員が不審に思い確認して詐欺を防いだとありました。

マイナンバーカードの売りは、個人情報を一つにまとめることです。銀行口座、住所、収入情報がまとまっています。以前は、病気やケガをした時、保険証さえ持っていれば、どこの病院もその人の保険を確認して、治療をしてくれました。それが、個人情報を持ったカードと、それを守るのが、顔認証か、暗証番号です。しかし高齢者は、暗証番号を自己で守り切るのは、大変な事です。これらが詐欺の温床になっていきます。さらに、その情報へアクセスするマイナポータルに、政府は責任を持ちませんと明記しているのです。個人情報を取られやすくしておいて、取られたら、個人の責任にされるのです。日本が誇る国民皆保険制度を根底から揺るがしているマイナンバーカードは即刻廃止するしかありません。詐欺の餌食にならぬよう！

労働大学企画編集委員

小林　精一